Topic COLUMN：先生紹介

勉強にはメリハリと糖分!

田中 蓮士（関目教室）

はじめまして、今年度から関目教室で非常勤講師として勤務している田中蓮士です。

私は年長からアップル(今のパスカル教室)、小学部、中学部、そしてカイチ予備校とずっと開智にお世話になってきました。

いきなりですが私の高校受験について振り返ろうと思います。

中学生のときは水泳部に所属していました。部活をしているときは3年生の9月末で引退してから受験まで時間はまだあり、間に合うだろうと勝手に思っていたので、勉強よりも部活を優先的に頑張っていました。おかげで3年の夏に近畿大会に出場することができました。しかし、引退してからも部活気分は抜けきれず、あまり勉強に身を入れることができませんでした。時間はどんどん過ぎていき、12月になり「これじゃ本当に受からない」と焦り、ココロを入れ替えて受験まで本気で頑張りましたが結果は不合格でした。引退してすぐに切り替えられたら…と後悔してもしきれないです。受験当日はとても緊張していて頭が真っ白になってしまい、いつも通りなら分かったであろう簡単な漢字の書き取り問題が一つも解けなかったことを今でも覚えています。

みなさんには自分と同じ気持ちになって欲しくないので、遊ぶときは目一杯遊び、勉強するときは一生懸命勉強するといったメリハリをつけてほしいなと思います。

そして勉強するときは集中力を高めるためにも適度な糖分を摂りましょう。運動するときと同じように勉強にはエネルギーが必要で、特に脳のエネルギー源となる糖分が必要です。そしてかなり多くのエネルギーを消費しているので、甘い食べ物を食べることが大事になってきます。 (糖分の摂りすぎは良くないので食べ過ぎには注意を!)

私は森永の大粒ラムネをボリボリ食べていました。食べやすく、美味しいので手軽に糖分が取れるのでおすすめです。

中学3年生は受験直前になり、しんどい時期でストレスも多く感じるだろうと思います。自分の好きな甘い食べ物を食べてリフレッシュして受験を乗り越えられるよう頑張ってください!

福井のちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE 福井幸司（カイチ予備校蒲生校）

敬意と感謝をベースに強いチームを目指す!

人気漫画『僕のヒーローアカデミア』をご存知でしょうか?

私は以前から存在を知っていたのですが、昨年の夏にある生徒の作品説明が上手で、とりあえず第1巻を読んでみました。読み始めると「もっと早くに読んでおきたかった」と思わされました。少しずつ読み進め、最新巻まで読みました。「個性」と呼ばれる特殊能力を人類の8割がもつ超人社会が舞台で、さまざまな「個性」をもつ登場人物たちが、状況に応じて、「個性」の組み合わせによって、想像以上の力を引き出されるのが魅力だと感じています。

カイチ予備校蒲生校にもそれぞれに違う特性をもった、たくさんの卒塾生がスタッフとして働いてくれています。社会に出る前に良い経験を積んでほしい。一緒に生徒たちのために戦うチームのメンバーになってくれるのだから、強いチームにしたい。これが私の揺るぎない想いです。

では強いチームにするにはどうすれば良いのか。2017年度WBC日本代表の投手コーチも務められた権藤博氏の本に強く惹かれました。

「喜びを共有できてこそチームは強くなる。選手たちはゲームに出なければ勝利の分け前には預かれず、チームに一体感も生まれない。一人ひとりに居場所と役割を与えることで全員がヒーローになる道を模索する」(権藤博『継投論』)

▲左から森上先生、宮本先生、富村先生。
講師として順調に成長しています。

学生スタッフの役割は、教科指導、生徒面談、質問対応の3部門に大別されます。スタッフの特性に合わせて1つまたは複数の部門を担当してもらっています。私がスタッフに求めるのは「敬意と感謝をもって働くこと」です。

生徒面談を担当するスタッフは「どうすればヤル気になってくれるのか?」、「こんな悩みにはどう対応すれば良かったのか?」など「正解のない仕事」に悩みながら真摯に取り組んでいます。

質問対応を担当するスタッフは「どんな質問がくるのか?」という不安と戦いながら、精一杯対応してくれています。質問対応の中で生徒から勉強以外の悩みを聞き、相談に乗ることもあります。

教科指導を担当するスタッフは「教える内容を理解させるにはどうすれば良いか?」を懸命に考え、十分な予習をし、1コマ80分を1人で戦わなければなりません。かなりのプレッシャーです。

各部門のスタッフがどれだけ頑張ってくれているのかを想像し理解することで、他部門の仲間に敬意をもつ。そして自分の役割に専念できるのは、他部門を守ってくれている仲間がいるからだということに感謝する。全スタッフがこの2点を忘れずにいれば、チームは絶対におかしくならない、と終礼時に伝えています。これしか言わないくらいに。

野球で例えると、投手が三振でアウトカウントを奪ったとします。そのとき、ボールに全く触れることのなかった7人の内外野手は不要だったのか。三振を奪った後「みんなのおかげで安心して投げられたよ」と思える人間でありたいし、そんな投手のバックで守備に就きたいと考えます。

「優秀な大学生に授業の方法を身につけさせ、1講座限定なら十分な授業ができるのではないか」と考え、学生講師の育成もしてきました。開校以来たくさんの学生講師に支えてもらいました。豊富な講座設定ができるようになったのも学生講師たちのおかげです。新年度からは4年目となる伊東先生を柱に、3年目の宮本先生、2年目の富村先生と森上先生の4人で高1・2年生の通常クラスの数学を担当してもらいます。タイプの異なる彼ら彼女らの活躍は、私の大きな喜びです。

「敬意と感謝」を軸に結果を出せるチームになれるよう、支えるように引っ張りたいと思います。

▲今やライバルである伊東先生。
授業以外でも頼りになる存在です。

カイチからのお知らせ

■2月10日(土)は私立高校入試です。皆さんの健闘を祈っています。
■2月10日(土)・17日(土)・24日(土)は新年度の入塾説明会・テストを実施します。新小4〜新中3生で当塾に入会をご希望の方は、お電話でご予約ください。■2月11日(日)は珠算上級検定です。みんなしっかり練習しよう。
■3月11日(月)は大阪府公立高校一般入学者選抜日、合格発表は3月19日(火)です。受験生のみんなあと少し。最後の最後まで頑張ろう。
■3月11日(月)より新年度授業がスタートします。

発行／株式会社 開智総合学院　〒536-0004 大阪市城東区今福西2−1−8モデラートWASHIMI201　TEL.06-6939-0008

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター
Growing
February 2024 Vol.137
毎月10日発行

【本　部】
城東区今福西2−1−8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008
【今福教室】城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662
【今福第2教室】城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984
【関目教室】城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722
【古市教室】城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467
【高殿教室】城東区成育 5-22-10-2F TEL.06-6786-1008
【カイチ予備校】城東区今福西 1-10-17 TEL.06-6935-2220
【エニグマ】中央区谷町 9-4-5-3F TEL.06-6777-1563
【万緑会】天王寺区上本町 6-9-10-3F TEL.06-6772-5011

3/12(火) 蒲生4丁目に「カイコベ」開校します!

高木 秀章（塾長）

この記事を書いているのは2月9日。明日は私立高校受験です。今福の教室では桔梗原先生が先生達の言葉を集めた合格祈願お守りを配ったり、昨日は卒業生からキットカットの差し入れもあり、いよいよこの時期が来たという感じです。とにかく落ち着いて答案に力を出し切る。最後はみんなの合格を祈るのみです。

また、各教室では新年度準備も大忙しです。まだ、2月の初めですが、既に300名近くの方からお問い合わせをいただき、身が引き締まる思いがしています。

今回は3月12日から蒲生4丁目に開校する、個別指導専門教室「カイコベ」についてお知らせします。

皆様もご存じの通り、私達カイチは集団指導がメインの学習塾です。私達は集団指導に強いこだわりを持っています。集団独特のライブ感。学んでいる生徒同士、また私達講師と生徒との切磋琢磨。互いに刺激し触発され合う中で生まれる活気。私達は集団の熱さが大好きです。

そんなカイチが個別指導用に専門教室を、しかも他のカイチの教室があるエリア内にわざわざ作ろうと思い立った理由は、「本気で成績を伸ばしたい。頑張りたい気持ちはあるけれど、集団の中では辛さを感じてしまう子供達が増えている」と強く感じるようになったからです。

一概には言えませんが、コロナ以降、カイチではそのような相談を受ける機会が増えました。また、場合によっては学校に行けず退会してしまうケースもあります。「本人の気持ちの問題」と言ってしまえば簡単ですが、社会でもそのようなことで悩んでいる方はあまりにも多く、急速な社会変化のひずみの現れではないかと感じています。

集団は合わない。でも本気で頑張りたい。そんな生徒達が安心して学べる、本気の個別指導教室を作れないか。

嫌な勉強や受験と向き合う中に、充実感という静かな喜びがあることを子供達に知って欲しい。勉強そのものよりも、勉強を通して覚えた、努力や工夫を続ける姿勢こそが、社会で役立つことを知って欲しい。生徒と本音で話し、絶対に媚びない。こんな時代だから、子供達と本気で向き合う個別指導教室を作りたいと思いました。

指導は演習・解説が交互に無駄なく行える1:2。個別指導はどうしても授業単価が割高になり、2教科受講が増え受験や内申対策が弱くなりがちですので、映像指導やグループ指導を組み合わせてテスト前は5教科をフォローする仕組みにしています。また、定期対策や進路指導、受験対策は長年カイチで培い実機のあるノウハウを利用して実施します。

また、カイコベの看板を見ていただければわかりますが、2Fは和歌山の慶風高校と提携したサポート校を併設しています。この部分はまだ準備段階ですが、学校に行きたくてもいけない中高生を卒業までサポートする教室になる予定です。またその中で高校・大学受験を頑張りたい生徒達には、カイコベや近隣のカイチの各教室、カイチ予備校と連携して受験をサポートできればと考えています。

そのような中で、カイコベはカイチの各教室と連携が取れ、かつカイチ予備校に近い立地がよいと考え、蒲生4丁目に作ることとなりました。

「子供達の居場所」それがカイコベのコンセプトです。

カイコベの建物は、もともと私達もお世話になっていた写真館が入っており、外観は古い感じですが、中は明るく清潔感がありイメージにぴったりでした。それを、センスの良いルイジ先生とカイコベ教室長の井上先生で内装を考え、素敵な教室にしてくれました。ちなみに、カイコベの名称は、對島先生が深夜まで考えていたところ、奥さんが「カイチの個別、カイコベでいいやん。」と言ってくれたのがきっかけです。

カイコベが新しいカイチのカタチとして、しっかり地域に根付き、地域の子供達や保護者の皆様のお役に立てるよう、努力と工夫を重ね精進してまいります。ご興味のおありの方は、説明だけでも結構です。お声かけいただければと思います。

「勉強が楽しい。」そう思ったことはありますか?

カイコベ教室長　井上陽平

私が小学生のころ、勉強が楽しいなんて、一度たりとも思ったことはありませんでした。そんな私を変えたのが、カイチという塾でした。

おもしろくて活気の溢れる授業。気さくに話しかけてくれる先生。共に勉強に励む仲間。中学生の私には、それら全てが衝撃でした。こんなに一生懸命勉強していいんだ。自分はこんなに必死になることができるんだ。

そう感じたのが、私のカイチでの原体験です。

目の前の勉強に取り組むことが、将来の自分のためになる。頭ではわかっていても、つい他の楽しいことに目が行ってしまう。つい後回しにしてしまう。「頑張って勉強するなんてダサい。」「どうせ自分にはできない。」そう思ってしまう。でも、あなたはまだ知らないだけ。本気で打ち込むことの素晴らしさを。変わっていける自分自身を。そして、努力が実を結んだときの喜びを。

私たちカイコベは、あなたが安心して自分と向き合い、本気で頑張れる場所にしたいと考えています。そのために、頑張ろうとするあなたに徹底的に寄り添います。

「あなたの中に、すばらしい自分が眠っていること」

「努力の仕方を覚えることで、あなたの可能性は大きく広がること」

勉強の先にそんなことを伝えられたらと思います。

私がカイチに来て頑張れる自分に出会えた喜びを、カイコベに来た生徒たちと共有できる。

私はカイコベを「あなたが本当の自分に出会える場所」にしたいと考えています。

Focus

CLASSROOM REPORT 教室レポート

今福かいち学童 新年度は第2教室に移転します

グレンオリバー・サントス （かいち学童今福）

開智での1年目を迎えるまであと数か月。最初の仕事では、関目にあるもう一つの支部をサポートしながら、かいち学童今福の管理を任されました。現在2つの学童が運営されており、将来的にはさらにいくつかの学童をオープンする予定です。かいち学童は学生、教師、そしてもちろんシステムの面でも成功していると言えます。

社会に限らず、私達が物事を円滑に進めるためには、良い仕組みが必要だと思います。私達が子供の自立に向けて訓練するときと同じように、日課は子供の発達において重要な役割を果たします。適切なルーティーンがなければ、子供が学ぶ必要があることをすべて覚えるのは非常に難しく、成長が妨げられます。優れた事業計画と適切なシステムが必要なビジネスにも同じことが当てはまります。綿密な計画と体系的な運営がなければ、ビジネスは失敗します。

先に述べたように、これがかいち学童の成長、発展、成功の主な理由であると私は考えています。会社からの優れたサポート、教師の素晴らしい努力、そして子供達の学習意欲、これらすべてがこの成功に貢献しました。3年前に数人の生徒で始めた私達は、皆さんが私達を信頼してくれたおかげで、生徒数を3倍にすることができました。特に私が働いている今福学童では、来年度までに新しい校舎に移転することを発表できてとても嬉しく思います。生徒数の増加に合わせてさらに広くなりました。私達を信頼し、サポートしてくださっている保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

私達は毎日、子供達が成長し、より良い自分になれるよう全力を尽くしています。学校の課題を手助けすることから始まり、そろばん、パスカル、トーキングキッズなどの特別コースに参加するよう指導し、最後に読み書きの重要性を伝えることで、子供達の学習能力の進歩と発展を促進します。さらに、私は英語を話し、理解することができる外国人なので、子供たちが適切に話したり、新しい単語を学んだりするのを手助けするなど、時々子供たちを英語に参加させることができます。これは彼らがここで得られるボーナスの一つだと思います。活動に関しては、特に学校の長期休暇中に、生徒たちが学ぶことができる、楽しくて刺激的でありながら知的な新しいことを常に作り出すよう努めています。自由時間には、できるだけ子供達と関わり、一緒に遊んで、子供達が友達だけでなく先生からも新しいことを学べるように努めています。

どの学校にもそれぞれの強みや良いところがあります。他の学校にもそれぞれの戦略やシステムがあると思います。しかし、かいち学童をユニークなものにしているのは、子供達への接し方です。彼らと一緒にいる間、私達は彼らが独立して責任感を持って成長できるようにするだけでなく、彼らが成長する過程で活用できる価値観や教訓も教えます。つまり、私達教師も子供達を幸せにするために心を注いでいるのです。結局のところ、重要なのは依然として彼らの幸福と全体的な幸福です。すべての子供達は、人生において様々な方法で多くのことを学ぶことができますが、子供達に幸せと帰属意識を感じてもらうことが私達の目標です。改めまして、日頃より御礼申し上げますとともに、最後まで変わらぬご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

カイチで指導していて 感じること

桔梗原　そら （今福教室・諸口予備校）

▲私が大好きな山極寿一さんの著書。是非一読ください

今日も塾長先生はお菓子の箱を持って教室へ配りに行く。「ああ、カイチにはジャングルのゴリラ的な心の豊かさが備わっている」と、私は安堵する。

2020年まで京都大学総長で、現在は総合地球環境学研究所所長をしている山極壽一（やまぎわじゅいち）さんは人類学者として屋久島で野生のニホンザル、アフリカ各地で野生のゴリラの社会生態学的研究に従事している。私は山極さんが大好きだ。アフリカの森の中でゴリラの群れの一員のように暮らしていたドキュメンタリー番組をテレビで何回か見たことがある。大阪の講演会でお会いしてから、何度かお手紙も頂戴した。私たち人間の「社会のありかた」や「子供の教育」についての考え方に共鳴することが多く、私の理想とする教育活動の原点は「ゴリラ社会」にあるといっても過言ではない。「ゴリラはサルやチンパンジーと違い、共食を通じてコミュニケーションを発達させ、他者を思いやる心の働きを促す」そして「ゴリラと違う点として人間が人間たらしめるものの1つに、1人の笑いが周囲の人たちを引きこむ効果をもっている」ということが、いつも頭から離れない。

私は現在、今福教室で中学生、そして諸口予備校で高校生に英語を教えている。去年の春にカイチに来てまず驚かされたのが、職員の事務室にお菓子があることだった。生徒達にも、日々の授業で「ごほうび」としてもらった得点券を使ってお菓子交換ができる日がある。中学3年生にいたっては、定期考査前に9時間自習というものがあるのだが、参加した子達へ激励を兼ねてカイチからお弁当が配られる。年間行事にもなっているビンゴ大会では、教室長の先生が個包装されたお菓子を餅まきのごとく教室じゅうにばらまき、小学生の子供達は必死にそれをかき集める。小学生対象のクリスマス会では、高学年の子達がホットプレートでフランクフルトを焼いたり、お湯を注ぐだけではあるがラーメン屋さんをしたり、たこせんやミルクせんべいを作ってあげたりする。自分で「稼いだ」得点券を使ってこういう食べ物を食べたり、ゲームをしたり、そのゲームで新しく得点券を手に入れたり、得点券はそのクリスマス会で使いきれなかったものは回収されるというルールのもと、子供達は一生懸命に使い切る方法を考える。中には、その日に自分の得点券を使い切れないと判断した子達が「もう得点券がなくて、遊べない、食べられない」という（自分の知らない）下級生の子達に声をかけ、「これ、あげるよ。」と声をかけている。もらった子は例外なく嬉しそうに笑って、「ありがとう！」と言って新しい得点券を持ってどこかへ走っていく。こういう光景をあちこちで目にした私は胸がいっぱいになる。ここには大人社会の理想の縮図がある。学習塾なので「知識」を増やすことを求められるのは当然だが、このような形で子供達が生きるための学びを体験できるのは希少であると思う。そして私は後悔する。後悔するのが嫌いな性格であるのだが、それでも自分自身に正直に自問自答しても、やっぱり後悔する私がいる。「カイチという選択肢」―自分自身の子供達もカイチに通わせてやればよかったなぁ…と時すでに遅しなのではあるが、思い出しては胸がちくっとする。

カイチで指導していて思うことなのだが、職場として非人間的に忙しすぎることが時々あるというのもまた事実だ。私にとって「忙しすぎる」という指標は、やはり「食」にある。夕ごはん用に持ってきたおにぎりを食べる時間がない日もある。お茶1杯を飲むことができない日もある。教室長である岸田先生もお弁当を食べる時間が物理的にとれない日が時々ある。いくつかの職場で働いてきた経験からいうと、これは間違いなく改善すべき点であるといえる。去年の秋ごろ、私は現状打破をしたくて何が何でも1日1杯のお茶は飲む！おにぎりは絶対に食べてやる！と決めた。それでも、生徒対応などで叶わなかった日も残念ながら何日かあった。夜中に帰宅して、食べ損ねたおにぎりを噛みしめながら私は考えた。「どうすれば改善されるのか？」職員の人手不足は否めない。時間を効率的に使うにはどうしたらいいのか。いろいろ無駄なものが気になりだした。仕事のストレスを減らすために、どうすればいいのか。自分の創意工夫でどうにかなりそうなことは、実践していこう。失敗しても、またそこからやり直したらいい。いや、昔、日本航空の再建に取り組んだ稲森和夫さんがこんなことを言っていた。「世の中に失敗というものはない。チャレンジしているうちは失敗はない。あきらめたときが失敗である。」そうだ、私も実はいろいろ失敗はしているのだが、傍観者ではなくチャレンジを続ける人でありたいと願う。

私は今福教室がホームグラウンドであるが、この教室で本当にラッキーだと感じている。他の教室に配属されていればそこもまた良しとなっていたのかもしれないが、少なくとも今福教室では教室長の岸田先生をはじめ、非常勤やパートの先生方全員が共助の精神を持っている。私がミスをしても、すぐに誰かがカバーに入ってくれる。年齢や性別や役職を越えて、互いを尊重しあいながら仕事ができているという実感がある。私も早く仕事を覚えて、他の人のカバーに気持ちよく入れるようになりたい。

今年は元旦に能登半島地震が起き、今なお2万人近くの人が避難生活を余儀なくされている。2011年3月11日に起きた東日本大震災を今の小・中・高校生は知らない（記憶にない）のだという。今回の能登半島地震が人生で初めて体験する大地震になるのだろう。私はと言うと、1995年1月17日の阪神・淡路大震災のときには救援活動に従事し、2018年7月の西日本豪雨では岡山県倉敷市真備町が大規模な水害に見舞われ、災害ボランティアとして被災家屋の片づけを手伝った。今の私に何ができるのか？自分の心に従いながら、できることをやっていこうと思う。

これから高校受験本番を迎える中学3年生の皆さん、まずは第1志望校合格のためにこの時期をしっかり乗り越えてくださいね。日本全国で（そして世界のあちこちで）あなた達の若い力が求められています。今のがんばりは、自分のためだけではありません。いつか必ず被災地の復興にも役立ちます。そんな皆さんのサポートが少しでもできるなら、私も本望です。

美味しくて、栄養のあるものを食べて一緒にがんばりましょうね！